

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙4章1~16節I>

①「主の囚人」？ しかし、「招かれた」と表現する不思議！

パウロは自分のことを「主イエス・キリストの囚人」(1,3:1)と表現します。囚人にいい印象はありません。しかしそう言いながら、神様から「招かれた」と何度も言っています(1,4,1:18)。自分の罪深さに気づかされ、しかもそれを赦して下さる神様に用いられて生きる人生に入ったパウロの思いをよく告げている言葉です。しかし、これはパウロの勝手な思い込みではありません。本当に神様は彼を招かれたのです。そのパウロを用いて私たちに告げて下さったことは、「神様は私たちも招いて下さっている」ということなのです！

②招きにふさわしい歩み1 他者に対する態度と関係！

そのパウロが、「神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み(なさい)」(1)と言った後にまず語ることは、周りの人々、すなわち他者に対する態度への忠告、「謙遜(高ぶらず)、柔和、寛容、愛、忍耐、平和、一致」でした(2-3)。パウロを赦して下さった神様も、彼にとっての他者です。「だから、今度はあなたが他の者に対して同じようにしなさい」、とパウロは神様から示され、その教えを伝えたのです。

③招きにふさわしい歩み2 「一つ」の強調！

続いてパウロは「一つ」であることを強調して語ります。4節と5節で、「体(教会)―主(神)」「霊(聖霊)―信仰」「希望に与る―洗礼を受ける」を対応させながら、エフェソの信者たちに一つとなるようにと語っています。他者への態度として「霊による一致を保つように務めなさい」(3)と語ったことは、なんとなく「仲良くしなさい」というようなことではないのです。では、どういうことなのでしょう？

④神様が与えて下さった本当の生き方へ ― 教会で生きる！

聖書の信仰は、「神様を信じて生きなさい」とだけ教えているのではありません。神様が用意して下さった「神の家族」(2:19)「教会」(3:21)に加わり(洗礼を受け)、その中で②で教えられた姿に取り組みながら生きることが求められているのです。教会、それは、この世界がどんなに絶望的であっても、私たちがここでこそ神様と神の家族に喜んでもらえるように取り組んで生きる価値ある、新しい世界なのです！